

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

広範な分野の知識の獲得と政策分析力の形成

(狙い内容)

総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策の広範な分野の知識を身につけると同時に、文書、文献の意味を的確に理解し、さらに自らの考えを正しく文章で表現するための読解力を養う。また、データを活用するために必要となる知識と技法の基礎を習得する。さらに、専門的知識の習得過程において、問題発見能力、デザインおよび計画能力の形成を目指す。これらを通じて、的確な状況判断と状況分析の能力と、政策および計画の立案に必要な能力を身につける。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

新カリキュラムを履修した卒業生全員が、それぞれ必要とする専門的な知識と総合的な政策分析力を習得している。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

4学科体制になって以降、開講科目数が細分化、増加するとともに、教員の専門ごとのタコツボ化が懸念されており、カリキュラム改訂への機運が高まっている。総合政策学部が本来目指していた学部理念を再確認し、個々の領域の専門な知識とその関連領域を理解した総合的な政策分析・立案能力の獲得への問題意識が高まっている。

3. 達成度評価

評価指標	カリキュラム改訂 リサーチ・フェアでの政策分析・立案に関連する発表テーマ数	評価尺度	A:行動計画①②がともにAに達したレベル B:行動計画①②がともにBに達したレベル C:行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D:行動計画の未着手
------	--	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
D	C	B	A	A	A	A

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

各分野における実務的専門的技術の獲得

(狙い内容)

総合政策(環境政策、公共政策、言語文化政策)、メディア情報政策、都市政策(建築)、国際政策の各分野において求められる専門的知識と専門技術を獲得する。そして、学生が卒業後に、産官学の各分野において、その知識と技術を活用できるようになることを目指す。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

より上位の専門的技術や資格取得をめざす学生が増えている。
大学院への進学希望者が増えている。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

より上位の専門的知識や技術を高めることへの意欲が、必ずしもすべての学生に共有されていない。たとえば建築士プログラムにおいては一級建築士受験資格を得るカリキュラムが用意されているものの、二級建築士受験資格取得で満足する学生が多い。各学科とも大学院への進学志向が低い。

3. 達成度評価

評価指標	専門的資格取得に関連する科目の履修者比率。 大学院進学者数。	評価尺度	A:行動計画①②がともにAに達したレベル B:行動計画①②がともにBに達したレベル C:行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D:行動計画の未着手
------	-----------------------------------	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
C	C	B	B	B	A	A

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

語学力と的確なコミュニケーション能力の形成

(狙い内容)

英語を中心とする語学力および政策に関する議論やディベートの能力を向上させるとともに、コンピュータによる情報処理とプレゼンテーションの技法を習得する。このことを通して、将来的には国内外において自らの政策や計画を的確かつ論理的に説明できるようになることを目指す。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

すべての学部生がそれぞれのレベルに応じて、キャンパス内外で抵抗なく英語を話し、聞き、書くことができる。
現在よりも多くの学生が海外研修や留学プログラムに参加している。
多様なアクティブラーニングのプログラムが実施され、表現力やコミュニケーション力に自信を持つ学生の活動が活発化している。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

英語の少人数授業はおこなっているものの、高校時代は英語が得意であったのに大学で自信を喪失する学生がいる。
学生間のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の格差が広がっている。

3. 達成度評価

評価指標	学部独自の海外研修・留学プログラム数の増加 アクティブラーニング関連科目数の増加	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手
------	---	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
C	C	B	B	B	B	A

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)

社会の諸問題を見据えた課題設定とそれを遂行するための能力の形成

(狙い内容)

各分野の教員が自らの能力を常に研鑽し、教員間あるいは教員と外部の専門家との協働作業を通して、幅広い研究課題を指導できるような体制を構築する。また、学生は、卒業論文、進級論文、ファイナルレポートなどの各学年に課せられる研究課題に対する取り組み、また各分野の専門教員による研究指導により、その問題発見能力、解決能力を研鑽し、そのことを通して社会の諸問題に対峙することができる能力を形成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

学外フィールドワークをはじめ、PBL関連科目への取り組みが活性化している。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

総合政策学部では、本来様々な政策課題の発見、分析、評価、提案ができる人材教育を目指しているが、必ずしも全ての学生、教員に理解されているわけではない。社会の諸問題に直結した政策への関心を今以上に高める必要がある。

3. 達成度評価

評価指標	フィールドワークプログラムにおける満足度 学外の実務家、行政担当者などを招いた講演会数	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手
------	--	------	---

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
C	C	B	B	B	B	A